

Title	バタイユと『社会批評』の執筆者たちの思想連関：精神分析学・哲学を中心に
Sub Title	The ideological linkage between Bataille and the writers of La critique sociale : focusing on psychoanalysis and philosophy
Author	石川, 学(Ishikawa, Manabu)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2024
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	入手済みであった『社会批評』のリプリント版につき、バタイユ以外の執筆者の記事も含めて読了した。バタイユの記事については翻訳出版を視野に入れているため、翻訳ならびに注を付す作業を断続的に行った。同誌で言及のある著作や論考、さらに、同誌の記事を正確に理解するために目を通すべき著作や論考は膨大であり、日本国内ではアクセスできないものが大半であったことから、8月27日から9月4日にかけてフランス出張を実施し、パリ・フランス国立図書館を中心に資料収集を行った。結果として、実際に入手し得た資料は相当な分量となり、その整理と読解に多くの時間を費やす必要が生じた。作業は順調に進んでいるが、年度内に完了するには至らなかったため、新年度も継続し、追って研究成果をアウトプットできる段階に移りたい。上述の翻訳出版に向けた作業も、とくに訳出に関しては進展を得たが、新たに入手した資料の解読により、想定していた注内容を見直す必要にも迫られた。これも引き続いて実施し、より充実したかたちで成果を公表することにつなげたい。なお、当該翻訳の出版にあたっては、最新の見地より執筆した論考を訳文とあわせて掲載する計画であるが、これについてはアウトラインを作成し、徐々に肉付けしていく段階である。総じて、研究の進捗を得ながらも、さらなる持続的取り組みを要する状況とまとめられる。内容面でいうと、思想家たちの精神分析学と哲学を中心とした思想連関を検討するにあたり、狭義の精神分析学・哲学だけでなく、政治思想的な観点が前景化してくることは想定していたが、当初考えていた以上に、宗教思想的な観点の重要性が浮かび上がることとなった。今後は、「『社会批評』の執筆者たち」に限らず、同時代の宗教思想家たちの影響をいっそう視野に入れて、研究を進める必要性を痛感している。 I have completed reading the reprint of La Social Critique, including articles by authors other than Bataille. Since I am considering translating Bataille's articles for publication, I have been working intermittently on translating and annotating them. I conducted a business trip to France from August 27 to September 4 to collect materials mainly at the Bibliothèque Nationale de France in Paris. The amount of material I was able to obtain was substantial, and I had to spend a lot of time reading it. While the translation work described above has made progress, the reading of newly acquired materials has also forced me to revise the content of the notes I had already considered. In general, I was able to advance the research, but the situation can be summarized as requiring further sustained efforts.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2023000010-20230144

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2023年度 学事振興資金（個人研究） 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	商学部	職名	准教授	補助額	300千円 (A)
	氏名	石川 学	氏名（英語）	ISHIKAWA Manabu		
研究課題（日本語）						
バタイユと『社会批評』の執筆者たちの思想連関——精神分析学・哲学を中心に						
研究課題（英訳）						
The Ideological Linkage between Bataille and the Writers of La Critique Sociale -- Focusing on Psychoanalysis and Philosophy						
1. 研究成果実績の概要						
入手済みであった『社会批評』のリプリント版につき、バタイユ以外の執筆者の記事も含めて読了した。バタイユの記事については翻訳出版を視野に入れているため、翻訳ならびに注を付す作業を断続的に行った。同誌で言及のある著作や論考、さらに、同誌の記事を正確に理解するために目を通すべき著作や論考は膨大であり、日本国内ではアクセスできないものが大半であったことから、8月27日から9月4日にかけてフランス出張を実施し、パリ・フランス国立図書館を中心に資料収集を行った。結果として、実際に入手し得た資料は相当な分量となり、その整理と読解に多くの時間を費やす必要が生じた。作業は順調に進んでいるが、年度内に完了するには至らなかったため、新年度も継続し、追って研究成果をアウトプットできる段階に移りたい。上述の翻訳出版に向けた作業も、とくに訳出に関しては進展を得たが、新たに入手した資料の解読により、想定していた注内容を見直す必要にも迫られた。これも引き続いて実施し、より充実したかたちで成果を公表することにつなげたい。なお、当該翻訳の出版にあたっては、最新の見地より執筆した論考を訳文とあわせて掲載する計画でいるが、これについてはアウトラインを作成し、徐々に肉付けしていく段階である。総じて、研究の進捗を得ながらも、さらなる持続的取り組みを要する状況とまとめられる。内容面でいうと、思想家たちの精神分析学と哲学を中心とした思想連関を検討するにあたり、狭義の精神分析学・哲学だけでなく、政治思想的な観点が前景化してくることは想定していたが、当初考えていた以上に、宗教思想的な観点の重要性が浮かび上がることとなった。今後は、「『社会批評』の執筆者たち」に限らず、同時代の宗教思想家たちの影響をいっそう視野に入れて、研究を進める必要性を痛感している。						
2. 研究成果実績の概要（英訳）						
I have completed reading the reprint of La Social Critique, including articles by authors other than Bataille. Since I am considering translating Bataille's articles for publication, I have been working intermittently on translating and annotating them. I conducted a business trip to France from August 27 to September 4 to collect materials mainly at the Bibliothèque Nationale de France in Paris. The amount of material I was able to obtain was substantial, and I had to spend a lot of time reading it. While the translation work described above has made progress, the reading of newly acquired materials has also forced me to revise the content of the notes I had already considered. In general, I was able to advance the research, but the situation can be summarized as requiring further sustained efforts.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			